

- 【宗派】 浄土真宗本願寺派（お西）
- 【本尊】 阿弥陀如来
- 【開基】 然慶ねんけい
- 【創建】 鎌倉時代
- 【歴史】

西光寺は大東川沿いにあり、川面に屋根瓦が写る所謂お西のお寺です。大東川が今の川幅になる以前は、山門の前に堀があって道があり、川が流れていました。堀にはハスの花が咲き誇っていたそうですが、昭和37年の大東川河川改修工事に伴い現在の姿となりました。

街の中心に位置し、周りが開けた場所にあるお寺ですが、今の場所に移ってきたのは、寛永14年(1637年)で、それ以前は青ノ山麓にあり、鍋谷下の道場西光寺と称されていました。

～西光寺と法然上人～

鍋谷下の道場西光寺は、今から約800年前、浄土宗の御開祖 法然上人が讃岐に御流罪になったことに始まります。法然上人が開き創められた念仏浄土宗は衆生の機にかかわらず、どの様な者でも救われていく道を説き示し、民衆の心にもよく浸透するので、老若男女、身分の隔てなく多く人々が上人の許に集まっていました。しかしその栄えゆくさまをねたむ余宗の者も多く、ついに承元元年(1207年)2月、上人75歳の折ある事件をきっかけにした承元の法難が起り、讃岐の地に流罪とされました。同年12月の勅命により許されるまでの間、讃岐の各地を巡り念仏の浄土宗を説き弘めると共に、讃岐文化の開発にも精進されており、各地に今なお多くの足跡が残されています。この事柄については現在でも多くの方々が研鑽されています。

上人が12月8日附けの勅命にて許され都へ御帰りになる道すがら、讃岐の地に居られた間いつもお供していた弟子然慶の生地、讃岐国鶺足郡鍋谷の里に暫し憩われて、ここに草庵を建立し、阿弥陀如来尊像を安置せられました。上人此の草庵を諦観山西光寺と号すべし、と仰せられ帰洛の尊像と共にこの草庵を然慶に賜うたのです。これが西光寺の創りで、時は承元2年(1208年)歳も迫る師走でありました。

その後、天文8年(1539年)本願寺第十代證如上人しょうにょのみ弟子 進藤しんとう向専師こうせんに依って、浄土宗は真宗に改められ、大阪石山合戦では第十一代けんにょ頭如上人をたすけて多くの兵糧を本願寺に送っております。

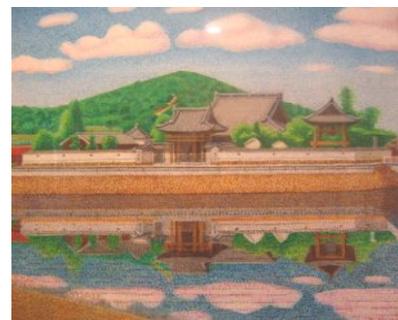
【お寺の主な建物】

本堂 天保4年に再建されたもので、真宗寺院の典型的な様式を踏襲しています。建物内は仏法を聞く場として、畳敷きの大広間となっており、梁や欄間などは精巧な彫刻がなされています。そこに座ってみるだけでも気分転換になるかも・・・宜しければ何時でもどうぞ。

船屋形茶室 江戸時代末期に建造された旧多度津藩主の御座船とされています。廃藩置県後、西光寺境内に移し一部改造が加えられましたが、昭和57年の移築解体修理によって創建当初の姿に復元されました。年に数回法要等で開けられています。

【主な年中行事】

報恩講	1月	親鸞聖人のご命日を営む法要
彼岸会（春・秋）	3月・9月	春秋の彼岸会はインドや中国にはなく、日本で始められた仏教行事といわれています。
宗祖降誕会（初参式）	5月	親鸞聖人のお誕生をお祝いする行事。お抹茶の接待あり。
虫干し会	8月	宝物を座敷に並べ虫干し(展示)しています。見学できます。
正信偈を味わう会	12月	毎週日曜日 朝7時より
船屋形茶室公開日	1月15日、3月16日、5月21日、8月22日、9月23日	



挿入画 総代 三浦 數一